



# 緑西LETTER

vol.4

## 緑西直言



### 災い転じて福となす

谷口 賢蔵  
(谷口医院・S54卒)

今津で小児科・内科を開業しています。毎年、盆と暮れに立派な胡蝶蘭を届けてくれる患者さんがいます。感謝の気持ちで、何とか翌年も咲かせようと努力するのですが、一度も咲いたことがありません。ところが、今年になって初めて咲いたのです。何か良いことがあります。

突然ですが「小児科医ある、ある」を検証してみましょう。

まず第一に「小児科医は子どもが好き」についてです。ほぼ99%は本当です。何をされても怒らないですネ。ひどいときには、診察台から飛び降りて身長計を引きちぎられたこともあります。母親から、ADHDを疑って相談されましたが、私はただ「やんちゃ」なだけだとなだめていました。以心伝心で、彼らも心を開いて接してくれました。高校生の時に「先生、僕は子どもの頃、悪かったのですね」と聞かれました。「そうやで、お母さんも心配してたよ」と応えると、「すいませんでした」と謝ってくれました。小児科医冥利に尽きる話です。

次に「小児科医は带状疱疹にならない」についてです。これはほぼ100%本当です。小児科医は常に水痘ウイルスに暴露されていますから、ブースターがかかっていて带状疱疹にはならないようです。スタッフにも「あなた達は、絶対带状疱疹にはならな

いから安心なさい」と言っています。例外があります。

私の知っている限り二人の小児科医が带状疱疹になりました。彼らは、共に悪性リンパ腫の治療中で、免疫が落ちていたのですね。

次に「小児科医はインフルエンザにかからない」についてです。私は、開業以来22年間一度もインフルエンザにかかったことがありませんでした。小児科医はインフルエンザにかからないものと信じていました。

しかし今年、A型インフルエンザにかかってしまい、四日も休んでしまいました。どうやら、迷信だったようです。保健所で多種職による子どもの虐待などの会議中に、寒くてふるえだしたのです。保健所の建物が古く、エアコンが効いていないからだと思い「これこそ虐待だ」と言いたくなりました。

その後、39度まで発熱してインフルエンザだったのです。玄関に「インフルエンザで休業します」と貼り出しました。

すると、再開時多くの方に声をかけられました。「えー、私は、地域の方にこんなに愛されていたのか」と感動しました。そうか、これが蘭の花の意味だったのかと思いました。「災い転じて福となす」だったのです。

# 頑張れ！ 兵庫医大！



社会医療法人渡邊高記念会  
西宮渡辺病院  
麻酔科 **垣内 英樹** (S58卒)

この執筆時は正に平昌冬季オリンピック開催中である。昨日には女子スピードスケート500mで小平奈緒選手が念願の金メダルを獲得した！今まで2回のオリンピックで個人ではメダルを獲得できずに正に臥薪嘗胆、努力を重ねて結果を達成できた時の姿は美しい。

スポーツ選手には結果を追い求める努力が必要である、皆一様に口では“楽しみたい！”を口にするが彼等彼女等が本当に楽しいのは目標を達成できた時に得られる無上の楽しみである事を物語っている。只そのスポーツに携わっていることはもちろん好きでやってはいるが、それが目的である訳では無い。本当の楽しみとは努力や苦しみを乗り越えた時に見えるものなのである。

私自身もアメリカンフットボールという格闘技に近い球技で高校から都合9年間選手を経験し卒業後からは母校のコーチとして、そして今は関西学生アメリカンフットボール連盟の役員として日本アメリカンフットボール協会の安全対策委員として活動を継続している。

その間母校の学生達を指導し、他の大学の選手達とも試合、AllStarチーム、Team Dr.として接してきた、この30年間の若者達と接してきたことになる。自身も麻酔科医として臨床の道を進み多くの先輩諸氏、師と仰げる先生方から沢山の薫陶を頂けたが果たして自分が指導し甲斐のある後輩でであったかは定かでは無い。

人は皆決まったように“最近の若い者は…”と口にする、実際に私も口にする、きっと私もそう呼ばれて

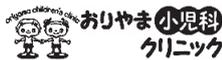
いたに違いない、教育環境は年々変わっていくものである。それに伴い教師の指導要領も変わり、核家族化で高齢者と接する機会も少なくなる、そして最近では極めつけの“ゆとり世代”である。

若い彼等だけに問題がある訳では無い、しかし…私は幸いにして医療だけの世界では無くスポーツの指導に携わる多くの先輩諸氏とも接する機会を得た、その中で私の最も尊敬する先輩の一人である団体役員の方から、リーダーとは人の上に立つと言うことは人身共に卑しからぬ者で無くてはならない、そして時として清濁併せのむ度量を持つ者で無くてならない、とのお言葉を頂いた。私自身もこの言葉を忘れずに若者を指導してきたつもりである、往々にして厳しいことを投げかけることもあったが、それは若者に怠けや志の低いことが見え隠れしていたからである。

もう一人の尊敬する先輩は、今の兵庫医大に人として育てる教官が減ってしまった、医師は人として範たるもの者で無くてはならないのでは無いか？小賢しい受験テクニックに走ることに不安を覚えると仰った。

また、他の私を可愛がってくれた大学の教官の方に“お前達は曲がりなりにも阪大や神戸大に入れなくて滑り止めとしてココに来た悔しさやコンプレックスというエネルギーがあった、でも今ココにいる学生達は兵庫医大に入ることを目標に受験してくる、入った時には満足感が一杯で努力をせんのだよ”と話して頂いたことがある。

はっきり言おう、他の大学の特に国公立大学出身者の研修医と我が母校の研修医ではかなりの差がある。医者になったと言うことのエネルギーが違うのだ！国家試験を通ると言うことは重要な過程であって目標では無いのだ！目標は立派な医師となることである。頑張れ！兵庫医大生！頑張れ！兵庫医大、人として立派な医師を創成してくれ！



## おりやま小児科クリニック



折山 文子  
(S54卒・卓球部応援団)

「子どもお母さんも元気になれる  
クリニックを目指しています」

高座町1-62 **Tel: 72-5500**

## 平岡内科

平岡 敬介  
(S58卒)



「人工透析一筋、盆も正月もなく  
頑張っております。」

小松町 1-5-12 **Tel:40-2525**

## 入学するところ(大学)まちがえた～～!! とはなりません。



医療法人社団西宮回生病院  
整形外科 福井 智一 (H14卒)

春光うらかな季節を迎え、緑西会の会員の皆様いかがお過ごしでしょうか?突然の不躰な題名申し訳ありません。今回の会誌がこの度兵庫医科大学の入学される新入生の方々に配布されると聞き、テーマを学生の皆様を対象にさせて頂きました。

改めまして、新入生の皆様、兵庫医科大学へのご入学おめでとうございます。本日より皆さんは兵医学生となり、6年後、医師という職業に就くために毎日を過ごしていくこととなります。『そんなことはわかりきったことだ。』とお思いでしょう。

しかしH8入学当日の私は、①念願のキャンパスライフとはかけ離れた狭い大学校舎。②当日配布された週間カリキュラムに体育がない。③おっさんにしか見えない先輩方のクラブ活動勧誘の洗礼に会う。など衝撃的な初日を経て、まさしく題名のような気持ちになったことを思い出します。しかし、それから22年の時を経て今思うことは、あの時の勧誘でラグビー部に入らなければ? 単科大学という体育はなくとも最終目標にしっかり引っ張って行ってくれる学校でなかったら?そして兵医学生という良くいえば心にゆとりを持った、人を見捨てない人間味を持った・悪い意味で言えば、勉強よりも遊びに最大努力 そんなゆるふわな人たちの中にいなかったら? おそらく私は今の厳しい医療社会の現場で楽しく働けていなかったらと思うと思います。

みなさんが将来就く職業『医師』について私が思う実際の現場を箇条書きで述べていきます。

- ・職場・チーム内でのリーダーもしくは中心的役割となる(患者さん、コメディカルからの評価)
  - ・患者さんがありきの受け身の仕事(終業前でも・休日でも関係なし)
  - ・生涯 勉強(変わる治療指針についていけるように)
  - ・ダイレクトに患者さん、その家族。からの気持ちを受ける。(喜び・感謝・怒り・悲しみ)
  - ・一人でするけど一人でない
- だいたいこんな感じです。

もちろん気持ちが乗らずうまくいかない時もあります。しかし、目の前の患者さん、コメディカルの困っていることに対して常に一緒に本気で向き合うことのできる医師。に本日入学された兵医学生はならなければいけません。絶対に。

私は医師をしていく上で一番大切なことは、『モチベーションと無理しないこと。ただ人の為』という相反することの同居であると考えます。モチベーションがあれば少々の無理は効きますし、医業の楽しさを最大限に感じることができます。しかし長続きはしません。自分の状態を長期的な視野で見つめる俯瞰力を持っておかなければ時にこの仕事を嫌になってしまうことさえあるのです。

16年前の私は整形外科に入り、社会の洗礼・学問の洗礼を受け2年の研修期間を6年間ラグビー部で培ってきた体力のみで乗り切りました。しかし、あまりに膨大な臨床の知識に怖気つき一旦大学院に身を置き、臨床の仕事から少し距離を置きました。(今思えばそれは俯瞰力ではなく、本能からだったと思います。(汗))その後ようやく自分のペースで整形外科という学問に入り、楽しみを見つけた記憶があります。

そして今の私はH.28年から赴任し、整形外科センターとして立ち上がった西宮回生病院を盛り上げようとしている真っ最中であります。外来 手術 病棟運



### 国夫新生クリニック

大西 国夫  
(H3卒・準硬式野球部)



新しく生まれ変わった

国夫にご期待ください!

甲子園口2丁目15-14 Tel:67-1574



### 藤川クリニック

内科・循環器内科

藤川 洋子  
(H4卒・空手部)



趣味♡観劇(市医師会宝塚愛好会)  
副業♡舞台(劇団音芽)

頑張っています!!

甲子園口3-4-24 Tel:67-0203

営 ゼロからの作り上げであります。目の前の患者さん一人一人に最大限の努力をし、コメディカル、同僚の先生がたにたくさんの協力してもらいながら理想の治療体系、職場環境を作り上げるべくあせらず（桃栗三年柿八年）、楽しく生活しております。緑西会の皆様にも安心して患者様を紹介していただける病院を井上院長他スタッフ（常勤10名）とともに日々努力しておりますので、叱咤激励のほどよろしく願いいたします。（脊椎外科・腫瘍外科以外すべて行っています。）

話が私的なものに逸れましたが、  
改めまして新入生の皆様。

医師になるまであと6年もあります。

いっぱい遊んで、学んで、挑戦して、いろんな人を観て、恋愛して、バイトして、喧嘩して、怒られて（但し法に触れてはいけません。親仲間が悲しみます）様々な経験を踏んで、兵庫医大生らしい優しい人間力の溢

れる医師になれることを心よりお祈りいたしております。そしていつかどこかで一緒に働けることができれば嬉しいです。この度はご入学誠におめでとうございます。



## 実行委員より



なかおクリニック泌尿器科  
**中尾 篤** (H9卒)

緑西会会員ならびに会員ではなくともこの緑西レターをお読み頂いている先生方、こんにちは。新規実行委員会発足時から会計、会報発送等陰ながらお手伝いさせて頂いております平成9年卒業の中尾です。阪急夙川駅北側で泌尿器科開院し約6年になります。

まずは自分自身を振り返ってみますと、卒業後勤務医時代は仕事が忙しい事もあり、緑樹会活動への参加はもとより、実際どのような活動をしているのかすら分かっておりませんでした。そんな状況の中、緑西会には開院して間もない頃、恥ずかしながら会の存在すら知らない状況で、現在代表世話人の吉岡先生から参加を勧められ、少し緊張しながら最初に参加したのがはじまりです。しかし参加してみると緊張感はあっという間になくなり、学生時代お世話になった懐

かしい先生やクラブの先輩つながりの先生など、昔話に花が咲き、すぐに打ち解ける事が出来ました。やはり同窓生というのは何故か安心感があり特別な存在だなあとしみじみ思った事を今でも思い出します。この参加による連携で、気軽に他科の先生にも診療で分からない事を相談させて頂いたり、逆に相談して頂いたり、診療に非常に役立ち、随分助けて頂きました。

年に1回の緑西会総会はこの4年間は日本盛煉瓦館にて行い、毎年約30名の先生方にご参加頂いておりますが、まだまだ参加したい気持ちはあるけど、思い切って行けない先生も多いと思います。同じ大学で過ごした先生ばかりですので、何かと共通点はありますから、気軽に参加して頂ければ大歓迎です。もっと多くの先生方にご参加頂き、もっと広い会場でなければ開催出来ないくらいになれば実行委員としては嬉しい悲鳴です。自分としては年代的にベテランと若手の先生の橋渡しが出来ればと思います。皆様のお力でもっと沢山の先生をお誘い頂き、緑西会のつながりをより大きな物とし、さらに盛り上げていきましょう。

### 兵庫医科大学同窓会緑樹会

緑西会会員数 145名

(H30.3.1現在)

### 緑西LETTER

発行日/平成30年4月1日 発行人/大江与喜子

代表世話人/吉岡 優

印刷所/株式会社小西印刷所

## 卒業式にて



上ヶ原病院理事長・西宮市医師会会長・緑西会会長

**大江与喜子** (S53卒)

今年も兵庫医科大学の卒業式でご挨拶をさせていただく機会を得ました。

もう10年近くになるでしょうか、当初は前西宮市医師会会長菊池英彰先生のご配慮で、「兵庫医大やから、あんたいってしてくれるか…」と代理としての御挨拶でした。代理挨拶は普通は挨拶文の代読になることが多いのですが(県知事の場合は特に)挨拶文は作っていただけませんので、というか、私自身が言いたかった事を言わせて頂きました。卒業生としてではなく、医師会としてのご挨拶は当時は慣れていませんので緊張です。女子学生の多い兵庫医大で、仕事の継続、キャリア形成をお願いしました。また学費の高い兵庫医大であっても国家補助をたくさん受けて医師として教育を受けた者の責任について、社会貢献する義務がある事、など偉そうに話したように思います。

その後、毎年何を話そうかと模索しながら、今は代理挨拶でなく、西宮市医師会会長としてと挨拶させていただいています。兵庫医大なので兵庫県医師会会長のご挨拶がいただきたいところなのですが、ご多忙のため、自分では「医師会」というものの代表として(なんと大胆な…)喋ってこようと大きい気持ちになっています。

当初、私のオリジナルの税金使って医師にしてもらえたのだから…というネタはその後何回か、ほかの先生方に使われていました。卒業生として、先輩としてのご挨拶の方がお話ししやすいのですが、石蔵会長、また後援会会長も同窓生の清水総一郎先生であり、

その前にご挨拶させていただく私は、やっぱり同窓生というよりしっかり医師会を宣伝しようとしています。まだまだ医師になっていない人達に医師会なんか…っと思うのですが、そこは兵庫医大、開業医の子弟が多いということもあり医師会のお話しも受け入れていただけるようです(と思っています)。兵庫医大の卒業生が、あちこちの医師会で活躍していること、医師会では卒業学校はわからないし、関係ないかもしれないけれど、違う学校の卒業生との交流ができ新しい事が学べる。よその学校を羨ましいと思うこともあれば、そこは兵庫医大がよかったなと思う事も。「卒業しても何かあったら兵庫医大に帰って来なさい、相談しにきなさい」と、学長先生は仰いますが、医師会ではまた違う学校の先輩の先生がたと交流できる楽しさがあります。クラブで競いあった学校の方たちに会うと、一気に当時まで若返る事も…西宮市医師会でも、活躍しているすばらしい先生方、「えっ?兵庫医大だったの」と嬉しくなるときもしばしばです。何処かで出会ったら、兵庫医大の卒業だということを名乗って欲しい。自信をもって発信してほしい。兵庫医大の名をあげるのは卒業生一人一人なんだと…と卒業生にお話ししながら、自ら反省し、そのような先輩にならなきゃと考えるのです(もう遅い…?)。

卒業式の壇上に西宮市医師会会長、緑樹会会長、後援会会長の三人が卒業生で並んでいます。このような正式な場で後輩の皆さんにお話しする機会をいただき光栄です。卒業生は4,183名となりました。その中で西宮市に属する方が一番多いかもしれません。緑西会は兵庫医大の足下にあり、私たちが一番頼りにしたいところが兵庫医大です。これからも母校を誇りに、そして、その誇りを創っていくのが卒業した私たちの役割だと思います。

医療法人財団 樹徳会

**上ヶ原病院**

☎52-2001

上ヶ原十番町1番85号

介護老人保健施設

上ヶ原訪問看護センター

**陽喜な家 すまいる**

理事長

**大江与喜子** (S53卒・第一期生/硬式テニス部、スキー部、サッカー部)

緑西会会長・西宮市医師会会長



## 尼崎より緑西会へのメッセージ



尼崎中央病院

院長 伊福 秀貴 (S54卒)

皆さん、日頃は兵庫医大同窓会にご協力していただき有難うございます。

私は兵庫医大S54年卒業の伊福と申します。兵庫医大血液内科出身で現在も尼崎中央病院で血液疾患を中心に診察しております。当院は無菌室が12床あり10年前には兵庫県下では神戸大学、兵庫医大より血液疾患が多く集まる病院として読売新聞にも大きく報道され広域より患者さんが集まっております。

また、最近では心臓センターでの心臓カテーテル検査が病院の看板医療となりましたが、脳外科の開設とほぼ平行して整形外科の関節センター、また消化器外科内科による消化器センターも開設され、大病院と同等の医療を提供できるようになりました。

尼崎は人口46万人ですが、高齢化現象は主要都市のなかでは郡を抜いております。65歳以上はまもなく40%を超える勢いです。当院の医療圏であるJR尼崎駅周辺の小田地区の10万人のかたには、当院の最新の治療を提供できるだけでなく、その後の療養やリハビリのための回復期リハビリ病棟や療養病棟を利用していただいております。また、退院後のご自宅での生活が円滑に進むように、MSWを中心に訪問看護で、また、それでもご自宅での不自由さがあれば老健施設やショートステイを利用していただくようにしております。将来的には、独居になられた方で自宅での生活が困難な場合は、サービス付き

高齢者住宅を建設予定ですので、それらを利用していただけるものと考えております。

今後きびしい医療情勢ですが、何とか今の体制を維持して、市民の健康と安心を提供できるようにと考えております。

また、当院は患者さんの幸せだけでなく、職員の幸せにも考慮して運営しております。看護師さんの平均残業時間は月3時間、有給休暇の取得率は90%に達しておりこれも県内随一です。よって、離職率の減少や産後の復帰率も非常に高いです。それには子育て支援として、保育所の完備が重要であったと考えます。研究会や学会でも、子供さんを預けて参加されておられます。今後、この制度を事務職員検査技師介護士医師にも拡大し、より質の高い福利厚生としたいと思っております。

医師に関しても当直の回数制限（常勤では月2回）を設け、あるDRだけに負担をかけないようにし、仕事で疲労困憊してしまうのを防ぐよう努力しております。DRもワークシェアの時代に突入しました。子供さんがおられる女医さんにも働きやすい環境を考えております。

最後になりますが当院は常勤42名のうち20名が兵庫医大卒業です。

また、他のDRも兵庫医大病院OBの先生方が多数です。今回、この場を借りて、病院紹介をさせていただき有難うございました。

緑尼会の通信は今年21回目となりました。

緑西会は絶対的多数の会員がおられるので、今後の緑樹会の中心的役割を維持するためにも発行部数回数も当会を超えることを期待して終わりにしたいと思います。

日本医療機能評価機構認定病院

 社会医療法人 中央会  
**尼崎中央病院**

〒661-0976 尼崎市潮江1丁目12番1号

TEL 06-6499-3045

<http://www.chuoukai.or.jp>

院長  
副院長(内科)  
副院長(消化器センター長)  
副院長(脳神経外科)  
心臓血管センター長  
心臓血管外科部長  
消化器内科部長  
放射線科部長

伊福 秀貴(兵庫医大S54卒)  
高塚 広行(兵庫医大OB)  
松原 長秀(兵庫医大OB)  
松本 強(兵庫医大S57卒)  
立石 順(兵庫医大S56卒)  
小林 靖彦(兵庫医大OB)  
岡 秀男(兵庫医大H元卒)  
山野 理子(兵庫医大H6卒)